

*研究企画部では、記事に関する皆様からのご意見ご要望をお待ちしております。

- 〈主な内容〉
- おしらせ～今後の行事予定～ ……1ページ
 - 令和2年度山形県農業技術振興会の顕彰 ……2ページ
 - トルコギキョウ種苗審査会の開催 ……3ページ
 - 小松智彦専門研究員が2020年度東北畜産学会賞を受賞 ……4ページ
 - 農業総合研究センタースキルアップ研修会を開催 ……5ページ
 - 若手研究員からの一言メッセージ ……5ページ

おしらせ～今後の行事予定～

野菜・山菜セミナー

最上総合支庁産地研究室では、試験研究成果等について、関係者の方々に広く知っていただくため、セミナーを毎年開催しています。

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、例年より人数を限定して開催します。

○日時：令和3年2月25日(木) 13:30～16:00

○場所：最上総合支庁産地研究室 大会議室

(新庄市大字角沢字駒場 1366 (農林大学校西隣り))

ドローンによる融雪剤散布の実演を行います

雪害の軽減及び効率的な春作業の推進のためには融雪促進資材の散布が有効ですが、作業負担が大きいことが課題です。

そこで、最上産地研究室では、急速に普及拡大しているドローンを用いた軽労的な融雪剤散布技術の開発に取り組みます。今年度は、2月下旬に融雪剤の散布について実演を行う予定です。



試験散布の様子

詳しくは下記へお問合せください。

最上総合支庁農業技術普及課産地研究室

電話(代表)：0233-22-2201

令和2年度 山形県農業技術振興会の顕彰

山形県農業技術振興会（阿部清会長）は、本県農業技術系職員の資質や士気の向上を目的として平成21年に設立され、毎年、本県農業の発展に優れた業績を上げた職員を顕彰しています。

今年度は以下の3グループが農業技術振興賞に選ばれました。

また、表彰グループのうち個人として顕著な業績を上げた者に贈られる優秀農業技術者特別賞に、園芸農業研究所の伊藤 慎一開発研究専門員と畜産研究所の阿部 正博開発研究専門員が選ばれました。11月26日（木）に村山総合支庁西村山地域振興局で表彰式が行われ、その後、受賞グループの代表者が取組内容を発表しました。



園芸環境部 虫害対策班

ぶどうを加害するクビアカスカシバの生態解明と防除技術の確立

山形県農業総合研究センター園芸農業研究所
園芸環境部 虫害対策班代表 伊藤慎一



優秀農業技術者特別賞



園芸農業研究所
伊藤開発研究専門員



「ラ・フランス」ピールカット
流通技術開発普及チーム

「ラ・フランス」が手軽に食べられるピールカット流通技術の開発と普及

「ラ・フランス」ピールカット流通技術開発普及チーム
代表 山田 美里

受賞
おめでとうございます



膨潤発酵飼料開発普及グループ

「膨潤発酵飼料」の開発・商品化と技術普及

山形県農業総合研究センター畜産研究所
膨潤発酵飼料開発普及グループ



優秀農業技術者特別賞



畜産研究所
阿部開発研究専門員



1等特別賞「K488」

トルコギキョウ

種苗審査会の開催

庄内総合支庁産地研究室



10月2日、当室において、第66回全日本花卉品種審査会(トルコギキョウ秋出し・シェード栽培、一般社団法人日本種苗協会主催)が開催されました。

トルコギキョウは県内の主力品目の一つで、複数の種苗会社から多数の品種が販売されており、優れた品種を見極めることは生産者にとって重大な関心事です。

今回は、日本種苗協会からの委託を受け、出品された25品種を当室にて栽培し、開花期に合わせて農研機構、他県試験研究機関、種苗会社、種苗店関係者などによる審査が行われました。

今年度は7月の低温多雨と8～9月の高温により、生理障害の発生や早期発蕾が懸念される気象条件でしたが、入賞した6品種は草丈が十分に確保され、花もボリュームがあり、優れた品質でした。1等特別賞の「K488」は純白でフリル咲きの大輪八重で、花卉が厚いこと、蕾の数が十分であり収穫適期だったことが高く評価されました。

また、審査会後の10月6、7日に生産者向けの圃場見学会を実施したところ、2日間合わせて56名の方が参加しました。当室から生育経過と受賞品種について紹介し、参加者からは品種の特徴や栽培上の留意点等についての質問が多数出され、貴重な情報発信の場となりました。

当室では、今後も産地の発展に貢献できるように、試験研究に取り組んでいきます。



圃場見学会の様子



小松智彦専門研究員が 2020年度東北畜産学会賞を受賞 ～畜産研究所～

農業総合研究センター畜産研究所家畜改良部の小松智彦専門研究員が、2020年度東北畜産学会学術賞を受賞しま

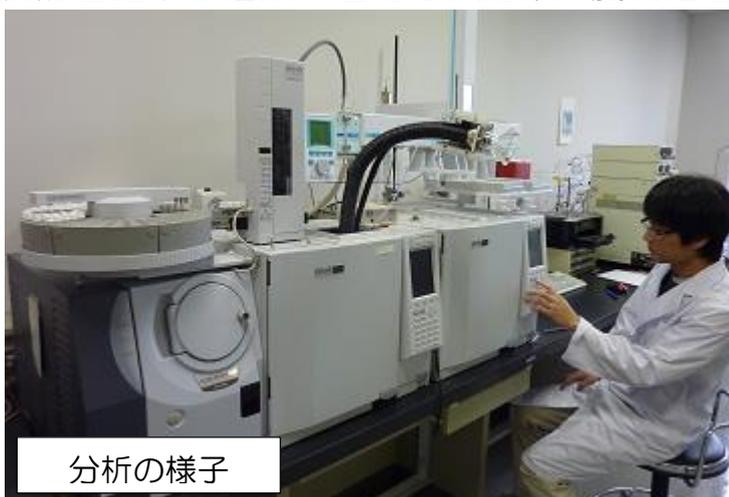
した。

本賞は東北畜産学会が、東北畜産学会の大会において優秀な研究発表を行った会員や東北畜産学会の会報に優秀な原著論文を掲載した会員に贈り表彰するものです。受賞は令和2年7月15日の総会で決定し、通常であれば第70回東北畜産学会大会（福島大会）にて表彰式が予定されていましたが、新型コロナウイルスの影響で大会は次年度に延期され、令和3年1月表彰盾が郵送されました。



今回受賞した研究「黒毛和種牛肉の食味成分に関する研究と食味に優れた種雄牛選抜への応用」では、①黒毛和種牛肉の呈味成分と②黒毛和種牛肉の香気成分に関する研究を行い、黒毛和種牛肉の肉質等級ごとの水分や粗脂肪含量及び呈味成分含量の違いと官能特性の違いを明らかにしました。また、黒毛和種牛肉の食味に重要な成分を3項目に絞り、枝肉市場のセリ前までに、1頭ごとの数値をレーダーチャート形式で表示する技術を確立しました。生産者にデータをフィードバックし、さらなる生産技術の向上に向けた取組みとして現在継続中です。

さらに、本県では得られた知見を候補種雄牛の選抜に活用し、食味に優れた種雄牛を選抜することに取り組んできました。その結果、令和元年に新規種雄牛「福福照」号が選抜され、今後の県産肥育牛のさらなる食味向上のために活躍することが期待されています。



分析の様子



農業総合研究センター



スキルアップ研修会

庄内総合支庁
農業技術普及課 早坂課長

を開催

工業技術センター
野内主任専門研究員

11月17日（火）に農業試験研究に関わる研究員の研究遂行力、研究管理能力等のスキルアップを図るため、研究初心者から管理職までを対象にスキルアップ研修会を開催し、2人の講師の方から講演をして頂きました。

1 講演目は、庄内総合支庁農業技術普及課早坂課長から「研究の楽しさ」について講演頂き、参加者からは「効率化、スケジュールリング等、今後実践したいことが多く参考になった。」等の感想がありました。

2 講演目は他分野における研究者を招き研究の新しいヒントを得るため、工業技術センター野内主任専門研究員から「工業技術センターにおける食品研究の取組と農業技術者への期待」について講演頂き、参加者からは「企業ニーズと社会背景を結びつけていく姿勢の重要性を感じた。」等の感想があり、全体を通して大変有意義な研修会となりました。

若手研究員からの一言メッセージ

昨年の4月から新規採用職員として養豚研究所に配属となりました。主に、人工授精用の豚精液における夏季の暑熱対策に関する試験研究を担当しています。当所では県内養豚農家に向けて精液供給を行っており、精液性状の維持・向上は県内豚の能力向上につながる重要な課題であるため、やりがいを感じます。

現在担当している研究は今年度で完了し、来年度からは新たな内容の研究が始まります。昨年秋に新規課題の設計や検討を行いました。豚に関する知識の不足に加え、大学とは性質の異なる県の研究方針に戸惑いもあり、非常に大変でした。先輩職員から多大なサポートを受けながらなんとか形となった研究計画でしたが、この経験のおかげで豚に対する理解が深まったように思います。

まだまだ自分の未熟さを痛感する日々が続いておりますが、新たな研究に向けて気合を入れ直し、農家の方々にとって有益な技術を開発できるよう今後も精進していきます。



農業総合研究センター
養豚研究所
研究員 藤田琴菜